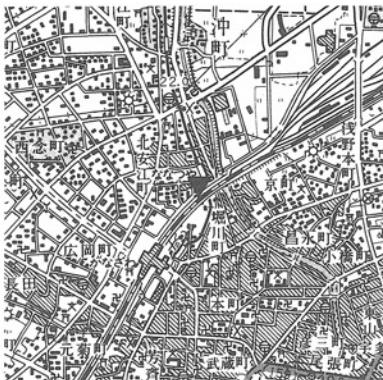


### 2005年出土の木簡



(金沢)

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| 所在地                     | 石川県金沢市安江町  |
| 調査期間                    | 一九九六年（平8）八月～一二月、二一九  |
| 発掘機関                    | 金沢市埋蔵文化財センター   |
| 調査担当者                   | 九七年四月～六月<br>増山 仁   |
| 遺跡の種類                   | 墓地跡  |
| 遺跡の年代                   | 江戸時代   |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要           | 久昌寺遺跡は金沢城下町の北西端、城下北部を流れる浅野川にほど近い場所に位置する。久昌寺は曹洞宗の寺院で、加賀藩二代藩主前田利長正室玉泉院の生母の菩提所として、縁者の明巖を開祖に慶長一五年（一六一〇）に建立されたと伝える。 |
| 調査地は久昌寺の墓地にあたり、上下の二層が確認 | 立されたと伝える。  |

久昌寺遺跡は金沢城下町の北西端  
遺跡及び木簡出土遺構の概要

城下北部を流れる涉野川には

できた。下層墓地では主に円形木棺墓と甕棺墓が使用されており、一七世紀後半から造墓が開始され一八世紀まで継続している。上層墓地は方形木棺墓が中心となり、一八世紀末から一九世紀初頭にかけて形成された。被葬者は由緒帳から中・下級武士層と確認できる。木簡は、第一次調査において、円形木棺の蓋板や側板に墨書きのあるもの九点、甕棺の蓋板に墨書きのあるもの三点、方形木棺墓の底板や蓋板に墨書きのあるもの二点、将棋の駒などの副葬品二四点、及び遺構外から一点の計三九点が出土した。また、第二次調査において、○四から七点、遺構外から一二点の計二一点、総計六〇点が出土した。ここではそのうち主要なものを紹介する。

一  
第一次調查

四号円形木棺墓

昌寺は曹洞宗の寺院で、加賀藩二代藩主前田利長正室玉泉院の生母の菩提所として、縁者の明巌を開祖に慶長一五年（一六一〇）に建立されたと伝える。

玉泉院の生母の菩提所として、縁者の明巣を開祖に慶長一五年（一六一〇）に建立されたと伝える。

径675×厚7 061

(1) b 「前」(側板)

上部径646×底径517×高742 061

八一 吻印形木棺墓

三四号印形木棺墓

・「河北十郎兵衛様 □田内助」

(2) 「南無阿弥陀仏」(蓋裏)

径512×厚13 061

・「田内助次郎 御紋者 (家紋)」

五四号印形木棺墓

八五号印形木棺墓

(3) •「前」(側板)

上部径448×底径354×高517 061

(8) a 「

•「後」(側板)

五六号印形木棺墓

五六号印形木棺墓

(4) (鏡文字)  
「首」(蓋裏)

径639×厚3.5 061

本來無南北  
迷故二ノ界城

六三号印形木棺墓

六三号印形木棺墓

(5) a 「迷故二ノ界城悟故十方空  
本来無東西何處有南北」(蓋板)

603×613×17 061

悟故十方空  
(他二ノ墨書多數アリ)」(蓋板)

径686×厚12 061

(5) b 「前」(側板)

上部径480×底径596×高617 061

(8) b 「前」(側板)

上部径653×底径538×高755 061

七六号印形木棺墓

七六号印形木棺墓

(6) 「○萬松間柳  
信女」

136×82×4 065

(9) 「□□□□」

114×56×1 011

178×64×7 061

一八号甕棺墓

(10) 「前 前」(蓋板)

径752×厚2.4 061

一一号方形木棺墓

(11) • 南無あみだぶ×

(150)×23×0.1 081

一三号方形木棺墓

(12)a 「正」(他二千墨書多數アリ)(蓋板)

713×1110×14 061

(12)b 「(合掌)」「日仏」「尊」ナド鏡文字多數アルモ判読不能)  
(底板)

1000×640×20 061

一九号方形木棺墓

(14)



58×40×1.5 011

二九号方形木棺墓

(15) •「通  
寬  
水  
寶」

・「文」

径28×厚5 061

二九号方形木棺墓

(16) 「南無妙×

径58×高14 061

一八号方形木棺墓

一八号方形木棺墓

(13) 「如□□□是□□□  
『波羅カ  
密經』」

27×23×11.5 061

『□□持日布施  
說七日』

27×23×11.5 061

『□□故  
世□』

27×24×9.5 061

『南無量阿僧  
世□』  
(他ニモ墨書アリ。異筆部分ハ鏡文字)  
1108×578×6 061

(17) 「金將」  
•「銀將」  
•「金」  
•「桂馬」  
•「金」

25×20.5×9.5 061

(20) 「香車」

・「金」

(21) 「歩兵」

・「と」

遺構外

(22) 「古屋三郎兵衛」

(130)×(16)×3 081

22×16×7 061

25×19×9 061

下部は左右を緩くカーブを描くように削つてある。底部は尖らず平らで、上部中央に穿孔が一ヵ所ある。表裏ともに縁取りのようになが塗られている。(9)は木釘が一ヵ所残存している。(11)は上下が折損しているため原形の詳細は不明。同文が記されていたと思われる断片が他に三点ある。(7)は箱の蓋で、表裏に文字が書かれている。

(10)は甕棺の蓋。(12)aは方形木棺の蓋で、中央に「卍」が確認できるが、その他は判読不能である。(12)bと(13)は方形木棺の底板。(12)b

は多数の鏡文字が様々な方向に書かれており、一部重なるものもある。判読不能。(13)は多数の鏡文字が見え、一部重なるものがある。また、紙を貼り付けた跡が三ヵ所あり、それぞれに鏡文字が残るが、判読不能である。このような鏡文字で残る墨書は、副葬された紙または布に書かれていた文字が転写したものであろう。

(15)は寛永通宝の木製模造品である。同様のものが全部で五点出土した。一〇~一二三面の多角形に成形し円形を作り出している。中央の方孔を墨書で表現するが、中央に穿孔をもつものもある。(16)は独楽で、裏側に文字が書かれている。(17)~(21)は将棋の駒である。金将と歩兵各四点、銀将三点、桂馬と香車各一点、計一三点が副葬されていたが、一点ずつの紹介にとどめる。文字はいずれも黒漆で書かれている。

(1)~(10)は一七世紀後半から一八世紀、(11)(12)は一八世紀、(13)~(21)は一八世紀末から一九世紀初頭にかけての遺物である。

(1)a、(2)(4)、(5)a、(8)aは円形木棺の蓋で、(2)(4)以外は蓋の表側に文字が見られる。(1)aと(8)aは「卍」を中心として放射状に五字ずつ文字が書かれている。(1)aと同じ墨書をもつ円形木棺の蓋板は、二六号円形木棺墓からも出土している。また、(8)aと同じ墨書をもつ甕棺の蓋が五号甕棺墓から出土している。(1)bと(3)は円形木棺側板で、胴上部に文字が書かれている。

(6)(9)(11)(14)は板状を呈する。(6)は長方形板の上部一ヵ所の角を取り、

二 第二次調査

五・六号方形木棺裏わざ

(1) 長瀬氏武」

土坑のK○I

(2) 浜納X  
仁隨X

溝S D O四

(3) 「。小ぬし

源右衛門」

径(137)×厚4.5 061

(7) 「(目印) 佐賀野屋八郎兵衛様行□  
拾壹番」

107×49×4 011

・「上戸真

□□□  
□□□市郎左衛門」

(8) 「卯三月十八日出  
□□□□□□」

218×(44)×10 081

・「寛政七歳卯□八月  
□□□」

(137)×(37)×3 065

(9) 吉祥

(259)×(37)×6 081

(10) 薙  
超雲寺」

径145×厚4 061

(11) 「生姜漬」

径106×厚4 061

遺構外

(5) 「村九□□」

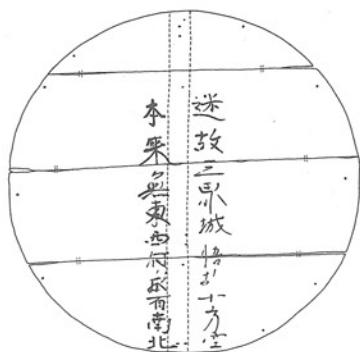
60×30×6 021

(6) 「寅七月廿五日  
□□□村弥右衛門」

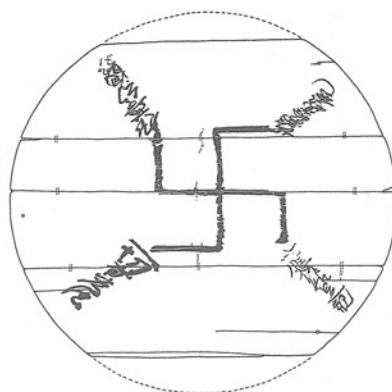
・「上戸真

□□□  
□□□市郎左衛門」

107×49×4 011



-(5) a



-(1) a



-(11)



-(7)



-(6)



二(12)



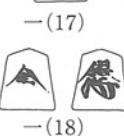
-(17)



二(6)



二(8)



-(18)



二(4)



二(2)



-(19)



-(20)



-(21)



二(11)



二(10)



二(7)



二(1)

2005年出土の木簡



(825) X 73 X 15 061

・「□□△○△○△」

屋敷道明・宇佐美孝・袖吉正樹各氏のご教示を得た。また、(12)の卒塔婆の梵字の釈説については、千手寺の木下密運氏のご教示を得た。

9

金沢市埋蔵文化財センター『久昌寺遺跡』（金沢市文化財紀要）一〇  
七、一〇〇五年）

(新出敬子)

尊の種子があり、その下に左から右に横書きで、光明真言（オン  
アモギヤベイロシヤナマカボダラニハンド  
マジンバラ／ハラバリタヤウン）を五段に記し、さらに詳  
細不詳の真言（オンバ不明不明ビ不明ソワカ）が続い  
ていたようである。裏面の「オンボクケン」は淨土變真言であ

なお、木簡の釈読にあたつては、金沢市玉川図書館近世史料館の